

第8回目となる今回の勉強会は、これまでの勉強会の振り返りや、現在検討中の高架下利用計画について改めて確認を行い、今年度の締めくくりとなる会となりました。市の職員15名を含む合計34名の方が参加し、来年度以降の取り組みや大野城のこれからについて議論を交わしました。職員・市民が混在するグループをつくりワークショップ形式の話し合いを行うことで、フラットな立場で意見を出し合ったり、参加者同士のまちづくりへの思いを共有する機会となりました。



高架事業について再確認

勉強会のはじめに、大野城市連立・高架下活用推進室より、高架事業に関して現在公表されている内容の概要説明を行い、改めて情報を共有する機会となりました。参加者の皆さんは、大野城市民として、事業者として、まちづくりにかかわるプレイヤーとしてなど、様々な視点から高架事業と自分の立場を照らし合わせ、これから変わっていくまちの姿を想像しながら、熱心に耳を傾けていました。



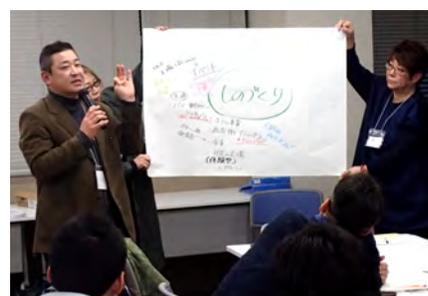
▲ グループでの意見交換の様子

高架下をどのように使ってみたい？

連立高架事業の内容を踏まえ、「高架下周辺の場所が使えるようになったらこんなことやってみたい」という内容を、参加者の皆さんに自由に考えてもらいました。参加者の皆さんと市の職員全員で意見を出し合った結果、普段から考えているまちの課題やすでに取り組んでいるまちづくり活動、子どもから高齢者までが住みよいまちとなるためのサービスなど、多種多様なアイデアが出されました。これらのアイデアから、『健康』、『文化』、『集まる』、『ものづくり』、『その他』の5つのテーマのグループがみえてきました。2つ目の作業では、テーマごとの班に分かれ意見交換を行い、それぞれのテーマの内容についてさらに深掘りし考えてもらいました。

グループ発表を行いました

最後に、グループで話し合った内容を、全体に向けて発表してもらいました。個人のアイデアだった内容も、グループで共有することで、具体的なイメージが膨らみ、eスポーツ、アート、映画上映会、専門性に特化したコンシェルジュなど、これまで大野城になかったワクワクするようなアイデアが数多く生まれました。また、『その他』のグループは、“まちの方向性”としてまちづくりのビジョンをテーマに発表を行いました。



▲ グループ発表の様子

事後アンケートの意見

【勉強会の中で印象に残った言葉、勉強会の感想】

- 多世代交流、働く場の誘致
- 沿線まちづくりの対象を市内に向けるか？市外に向けるか？
- 大勢のいろんな職種の方と意見交換できてよかった
- 大野城市民による大野城市民のためのにぎわいまちづくり 等

【高架下周辺のまちづくりへの思い、チャレンジしてみたいこと】

- 老若男女集う活気あふれるまちづくりを目指したい
- 街の中心を自分たちで作りたい
- 自分ができることに携わっていければと思います
- いい企画の実現化
- 継続的に関わっていきたい 等